

デルフィニウム新品種「ピンクスピーア」の育成とその特性

加藤直幹・今 満

(青森県産業技術センター農林総合研究所)

Breeding of Delphinium New Variety “Pink spear” and its Characteristics

Naoki KATO and Mitsuru KON

(Agriculture Research Institute, Aomori Prefectural Industrial Technology Research Center)

1 はじめに

デルフィニウムは冷涼な気候に適し、安定した需要が期待できることから、青森県では戦略品目の一つに位置づけ、振興を図っている。そのため当研究所では、デルフィニウムの育種に取り組み、これまでに5品種を育成している。今回、花色のバリエーションを拡大するために品質、揃いの良い品種「ピンクスピーア」(写真1)を育成したので、その特性等について報告する。

2 育成経過

「ピンクスピーア」は花色がピンクの選抜自殖系統に、同系統と海外導入実生を交配して得られた選抜自殖系統を交雑した一代雑種品種である。本品種は平成11年から選抜、育成を開始し、2010年と2011年に生産力検定及び現地適応性検定を実施し、有望と認められたことから、2012年に品種登録出願した。

3 特性の概要

農林水産省「デルフィニウム種苗特性分類調査基準」に基づく主要な形質は以下のとおりである。なお、①～③の特性(表1)は4月下旬に定植したものについて調査したものである。

- ①開花期は7月中旬の中生であり、「アストラット」、「MFライラックピンク」よりやや早い。
- ②切り花長は100～140cmであり、「アストラット」よりややコンパクトで、「MFライラックピンク」よりは大きい。
- ③花は八重で中輪、がく片は淡紫ピンク色である。
- ④生産性は4月定植で良品率が高い(表2)。
- ⑤2番花は品質が劣り、また越冬1番花では切り花長、ボリュームは優れるものの花色は紫色が強く本来の色が発現しないため、2番花および越冬栽培には適さない(表3)。

⑥日持ちは「アストラット」、「MFライラックピンク」より優れ、10日以上鑑賞可能である(表4)。

また県内の市場関係者や小売店へのアンケート調査では、「茎の硬さ」を除く全ての項目で「アストラット」、「MFライラックピンク」より優れ、特に「花色」および「総合的商品性」において高い評価を受けた。

4 まとめ

「ピンクスピーア」は4月定植で7月中旬に開花する中生で、適度な切り花長とボリュームがあり、花は八重、がく片は淡紫ピンク色で、品質、開花期とも良く揃う品種である。収量性、品質の面から4月定植1回切りの作型を基本とするが、柔らかな色合いから他の花にも合わせやすいため、長期間にわたって色々な場面で使用されると考えられる。そのため、夏秋期の連続出荷体系の構築が課題である。



写真1 ピンクスピーアの草姿と小花の形質

表1 「ピンクスパイア」の特性

形質	育成品種	対照品種	対照品種
	ピンクスパイア	アストラット	MFライラックピンク
早晩性	中生	晩生	晩生
開花期	7月中旬	7月下旬	7月下旬
草丈	高(135cm)	高(139cm)	中(100cm)
花穂長	長(78cm)	長(78cm)	長(55cm)
小花数	多(57個)	多(55個)	多(56個)
小花密度	中	中	密
花形	八重	八重	八重
花冠の大きさ	中(5.4cm)	中(5.4cm)	中(5.6cm)
がく片上部の色	淡紫ピンク(8902)	鮮紫ピンク(8904)	種紫ピンク(9212)
がく片基部の色	淡紫ピンク(9501)	淡紫ピンク(9501)	淡紫ピンク(9501)
花弁の大きさ	中(1.7cm)	中(1.7cm)	大(2.1cm)
花弁の主な色	白	白	白
花弁の二次色	淡紫	淡紫	淡紫

注1) 表記は農林水産省「デルヒニウム種苗特性分類調査基準」による

注2) がく片及び花弁の色は「日本園芸植物標準色票(JHSカラーチャート)」による

注3) MFライラックピンクは「マジックフォンテンライラックピンク」の略

表2 「ピンクスパイア」の定植日と切り花品質

系統・品種	定植年月日 (年月日)	採花盛期 (月・日)	切り花長 (cm)	花穂長 (cm)	小花数 (個)	茎径 (mm)	切り花重 (g)	調整重 (g)	採花株率 (%)	商品率 (%)	良品率 (%)
ピンクスパイア	2010.4.22	7.16	116±14	65±11	52	5.7	122	51	90	98	83
	2011.4.22	7.17	125±19	73±12	52	9.0	133	60	96	98	96
	2011.5.21	8.3	96±12	45±9	29	6.0	69	31	98	84	31
	2011.6.21	8.31	67±10	26±9	17	4.5	40	17	94	17	0
アストラット	2010.4.22	7.15	103±19	59±15	52	5.0	90	45	55	85	55
	2011.4.22	7.23	128±31	70±20	52	8.1	121	59	55	86	75
	2011.5.21	8.3	91±19	42±14	30	5.2	54	29	82	63	15
	2011.6.21	9.3	72±16	33±12	25	3.9	38	18	50	36	5
MFライラックピンク	2010.4.22	7.21	85±17	48±13	54	5.6	95	44	72	60	19
	2011.4.22	7.22	96±18	53±15	52	8.6	122	54	84	88	40
	2011.5.21	8.2	70±16	34±13	26	5.8	51	26	84	38	2
	2011.6.21	8.28	46±12	19±8	17	3.5	21	11	70	0	0

注1) 栽植様式: 2010年 株間・条間20cm4条植え 2011年 株間・条間15cm中1条あけ4条植え

注2) 切り花長、花穂長: 平均値±標準偏差

注3) 調整重: 花穂長の2倍となる様に全長を調整後、10cm刻みに切り揃え、重量を測定

注4) 採花株率: 定植株数のうち採花できた株の割合(%)

注5) 商品率: 採花本数のうち花飛び等のない調整長が70cm以上の切り花の割合(%)

注6) 良品率: 採花本数のうち花飛び等のない調整長が100cm以上の切り花の割合(%)

表3 「ピンクスパイア」の2番花および越冬1番花の切り花品質と生存株率

試験場所	調査日(期間) (月・日)	系統・品種	切り花長(cm)	花穂長(cm)	小花数(個)	茎径(mm)	切り花重(g)	調整重(g)	生存株率(%)	商品率(%)	良品率(%)	備考
場内 (黒石市)	9.15~10.31 2番花	ピンクスパイア	67	29	12	3.8	40	18	71	9	0	
		アストラット(対照)	81	34	20	3.6	36	19	53	30	1	
		MFライラックピンク(対照)	73	29	25	5.5	50	25	54	17	0	
現地 (三沢市)	6.13 越冬1番花	ピンクスパイア	129	63	77	13.2	197	86	69	90	70	花色はいずれも紫味が強い
		アストラット(対照)	114	61	60	11.7	134	71	53	100	60	
		MFライラックピンク(対照)	100	47	68	12.2	160	89	60	70	40	

注1) 定植年月日: 所内 2011.4.22、現地 2010.6.11(ポットに鉢上げ後、定植)

注2) 栽植様式: 所内 株間・条間15cm中1条あけ4条植え、現地 株間・条間20cm4条植え

注3) 生存株率: 2番花以降の生存率については9月中旬~10月中旬に調査、越冬後の生存率については4月下旬に調査

注4) 商品率: 採花本数のうち花飛び等のない調整長が70cm以上の切り花の割合(%)

注5) 良品率: 採花本数のうち花飛び等のない調整長が100cm以上の切り花の割合(%)

表4 「ピンクスパイア」の日持ち日数

品種	日持ち日数	備考
ピンクスパイア	12.5±1.5	退色、青変とも少なく、1週間経過後もそれほど劣化しない
アストラット	8.5±0.7	がく片の脱落、青変とも多い
MFライラックピンク	9.3±0.6	退色は少ないが花弁が脱落し、子房の膨らみが目立つ

注1) 日持ち日数は全小花の1/3の萎凋、あるいは落花までの日数

注2) 数値は平均値±標準偏差

注3) 4月定植1番花を用いて調査